

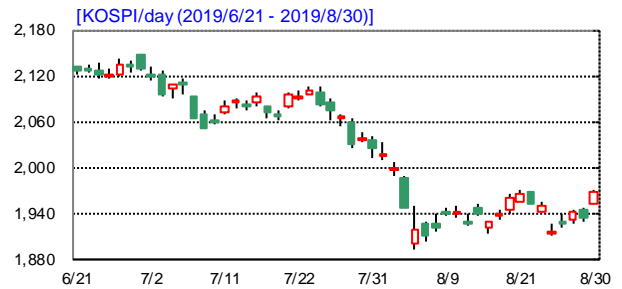


【韓国】 総合指数は 1.0%高と続伸、米中協議の再開期待で 4 週ぶり高値

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.0%高と続伸。週明け 26 日は米中対立の激化を嫌気して大幅に下げてスタート。米中の関税の応酬が世界のサプライチェーンに与える影響が懸念された。ただ、27 日以降はおおむね買い戻し優勢の展開。トランプ米大統領が中国との貿易協議を再開させると表明し、投資家心理がやや改善した。週央は米中や日韓対立の先行き不透明感から上値の重さも目立ったが、米中双方の協議再開に対する前向きな姿勢が伝わった 30 日は前日比 1.8%の大幅高。8 月 2 日以来、4 週ぶりの高値を更新して週の取引を終えた。韓国中銀が 30 日に政策金利の据え置きを決定したが、次回の会合で金融緩和を決めるとの観測が広がっている。今週も貿易問題の進展をにらみ神経質な展開か。国内では 8 月物価統計などが発表される。

▼指数チャート

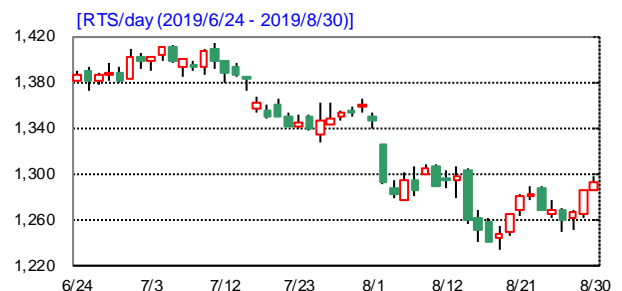


【ロシア】 RTS 指数は週間で 2.0%高と続伸、今週は米中関係をにらみ一進一退か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 2.0%高と続伸。米中貿易問題の改善期待や原油相場の上昇、好調な企業決算などが好感され、指数は 2 週間ぶりの高値を付けた。週前半は、原油安を受けて資源株を中心に売られ、指数は軟調な値動き。ただ、米中両国が通商協議に対して前向きな姿勢を示したことで貿易問題の見通しが改善。それに伴い原油相場や欧州株も上昇し、買い安心感が広がった。また、ガスプロムの 1-6 月期決算の純利益が大きく増加するなど主力株の好決算も買いを後押しし、指数は 30 日まで 3 日続伸となった。個別銘柄では非鉄金属のノリリスク・ニッケル (4.6%高)、石油のルクオイル (3.8%高)、金融のズベルバンク (2.1%高) などの上昇が指数を押し上げた。今週は米中関係や原油相場をにらみ一進一退の展開か。

▼指数チャート



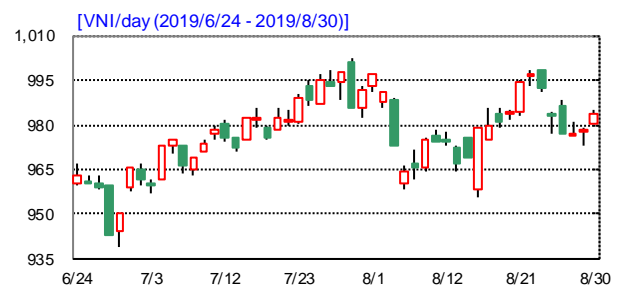
【ベトナム】 ベトナム指数は 0.8%安と 3 週ぶり反落、今週は出遅れ感から買い優勢か

勢か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.8%安と 3 週ぶりに反落。米中貿易戦争激化への警戒感から週前半に大きく下落した。前週末に米中が報復関税合戦を繰り広げ、貿易戦争が一段と激化した流れを受けて週明け 26 日の VN 指数は前週末比で 1.0%安。翌 27 日も警戒感が続き、指数は 0.6%安と続落した。その後は中国政府が米中貿易戦争の激化を望まない姿勢を見せ、9 月にも米国代表と面談する意向を示したことで、米中協議の再開期待から地合いが改善。指数は 30 日まで 3 日続伸したが、週前半の下落が大きく、週間では 3 週ぶりの反落となった。個別銘柄では、ペトロベトナム・ガス (2.3%安)、ベトコムバンク (1.9%安)、ピンググループ (1.2%安) などの下落が指数の重しとなった。今週は欧米株と比べた出遅れ感を背景に買い優勢の展開か。

▼指数チャート

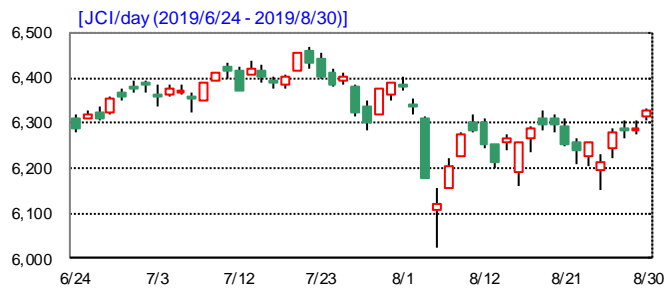


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.2%高、首都移転計画発表でインフラ投資に期待

ジャカルタ総合指数は週間で 1.2%高と反発。8 月月間では 1.0%安。先週は首都移転の発表が指数上昇に寄与した。週初の 26 日は前週末の NY ダウが米中双方による関税引き上げ発表を嫌気して急落した流れを引き継ぎ反落。一方、27 日はジョコ大統領が前日に首都を東カリマンタン州に移転する計画を明らかにすると、インフラ投資促進への期待感から買い優勢の展開となり、指数は終値ベースで前日比 1.0%上昇した。その後もじりじりと上値を広げ、30 日には 4 週間ぶりの高値を更新して引けている。今週は 2 日発表の 8 月の CPI のほか、外部要因では米中貿易協議の開催に向けた動きが相場を左右しそうだ。

▼指数チャート

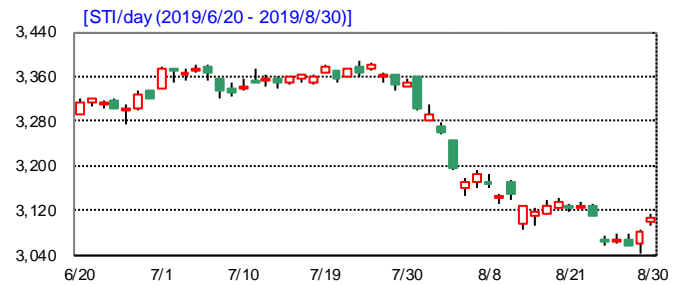


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.1%安、今週は 8 月の製造業 PMI が焦点

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.1%安と 6 週続落。8 月月間では 5.9%安。先週は週後半の上昇が下げ幅を縮めた。26 日は 7 月の鉱工業生産が前年同月比 0.4%減と市場予想の 4.9%減から上振れしたものの買い材料視されず、指数は終値で前営業日比 1.4%安と続落。28 日には約 8 カ月ぶりの安値を更新したが、29 日に米中貿易協議の 9 月開催への期待感から買われて反発すると、30 日も続伸して取引を終えている。今週は 3 日の取引終了後に 8 月の製造業 PMI が発表される予定で、4 カ月ぶりに景況感の分岐点となる 50 ポイントに到達すれば好材料。前週末の NY ダウが 3 日続伸したことは株式相場の追い風か。

▼指数チャート

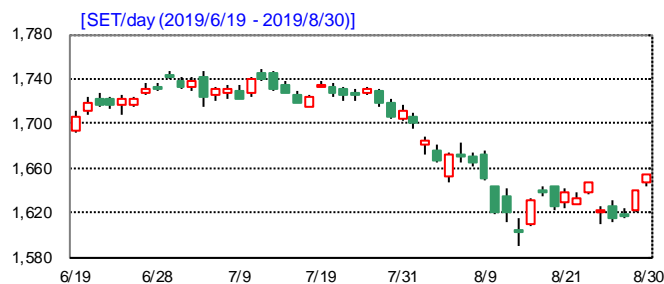


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.5%高、タイ石油公社が指数上昇をけん引

SET 指数は週間で 0.5%高と続伸。8 月月間では 3.3%安。先週は週半ばからの上昇が奏功した。26 日はエネルギー株と金融株が売られ、指数は前営業日比 1.5%安と反落してスタート。27 日は 7 月の鉱工業生産が自動車や石油部門の低迷を受け、前年同月比 3.2%減と 3 カ月連続で前年の水準を下回った影響で続落した。28 日は原油価格の上昇が好感されて反発し、29 日は中東での事業提携を検討していると報じられたタイ石油公社 (PTT) が指数上昇をけん引し、前日比 1.4%高。30 日には終値ベースで約 3 週間ぶりの高値を更新して取引を終えた。今週は 2 日発表の 8 月の CPI に対する市場の反応が焦点か。

▼指数チャート

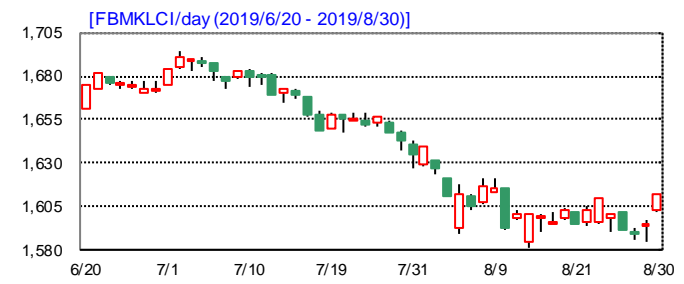


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.2%高、今週は 4 日に 7 月の貿易統計発表

クアラルンプール総合指数は週間で 0.2%高と続伸。8 月月間では 1.4%安。先週は国内の重要イベントが少ない中、週後半の上昇が指数を支えた。週初の 26 日はペトロナス系 2 社が指数下落を主導し、3 営業日ぶりに反落。その後も軟調な値動きが続き 28 日まで 3 日続落したが、29 日に反発すると 30 日は米中貿易協議の進展に対する期待で幅広い銘柄が買われ、指数は終値ベースで前日比 1.1%上昇した。今週は 4 日に 7 月の貿易統計が発表される予定で、輸出額が前年の水準を上回るかが焦点。前週末に為替相場で米ドル高リングギ安が一服したことは好材料。2 日はイスラム暦新年の振替休日のため休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。